



1000号おめでとう! アゲオのハライチ、 上尾を語る



昭和30年1月20日、『上尾自治便り』としてスタートした『広報あげお』は、62年の時を経て、今号で通算1000号を迎えました。この節目に当たり、自らのコンビ名に生まれ育った「原市」の地名を名付け、さまざまなメディアで大活躍する「ハライチ」のお二人に、『広報あげお』を見ながら、上尾の今までとこれからを語っていただきました。

ハライチ 『広報あげお』千号発行おめでとうございます！

澤部 それにしても、こうしてゆっくりに広報を見る機会は今までなかったな。俺の生まれた昭和61年5月号はママさんバレーが表紙だ。

岩井 俺の生まれた月は、「和紙ちぎり絵の会」が表紙だよ。

澤部 岩井さんは美術好きだから、そついう縁があるのかな？

岩井 俺は子どもの頃も絶対見ていたと思う。家に配られていたし。

澤部 平成25年の市制施行55周年の時に表紙にメッセージを送ったし、原市小学校の開校140周年記念式典で講演をした記事もあるよ。

岩井 へー。

澤部 いや、へーじゃなくて、俺たちの記事だから！講演でどんな話をしたのか記憶はないけど、子どもたちに気付かれないように、こっそり行ったよな。

岩井 俺は鮮明に覚えているよ。学校の外にあるトイレの話をしたもんだ。

澤部 そついえば、校舎裏の話もしたな。でも、上尾市や母校の節目、節目に自分たちを出してもらえてありがたいですね。

岩井 本当だね。

澤部 地元の地名をコンビ名にした

のは、ぱつと思いつきで付けたんだけど、喜んでいただいているんならありがたいことだね。

岩井 でも本当は、「アゲオ」って付けるべきだったんじゃない？

澤部 原市じゃ狭くしすぎたかな。上尾市民からも「ハライチって上尾の原市ですか？」って驚かれることも多いんで、まだまだがんばらないと。スタッフから出身地を「カミオ市」って言われることもあるし。

岩井 「カミオ」の方が読みやすいからね。上を「アゲ」とはなかなか読まないもん。

澤部 『広報あげお』の対談で言うんじゃないよ！「カミオ」説を。

岩井 でも『広報あげお』の題字もひらがなになっているからね。

澤部 漢字だと自信がなかったのかな。あつ、最近の広報はおしゃれなローマ字になっている。でも漢字にはしないんだ。あれ、アップピーとまゆみちゃんが結婚したんだ。子どもも生まれたんだって。知ってた？

岩井 俺はテレビの情報番組をやっていたんで知っていたよ。

澤部 アップピーは今、子育てしてるんだ。俺も子育て中だし、お互いイクメンを目指さないか。でも、上尾は子育てするにはいいまちだね。

岩井 いいと思いますよ。静かな住宅地が多いし。

澤部 大きな公園もあるし、上尾運動公園や上尾丸山公園とか昔はよく行ったな。シテイマラソンも出場したことがあるよ。小学生の時に、半ば強制的に参加させられた。

岩井 俺はサッカーをやっていたんで、出られなかったな。

澤部 うちは、父親も毎年ハーフを走ってたよ。走ると豚汁(あったか汁)をくれるんだ。

岩井 ドリンクで？



小学校入学時の澤部さん



『広報あげお』 1000号に寄せて

上尾市長 島村 穰



『広報あげお』は、昭和30年1月20日の創刊以来、おかげさまで1000号の節目を迎えました。記念すべき第1号は、3町3村による合併間もない上尾町時代に『上尾自治便り』として発刊され、昭和44年9月からは『広報あげお』に名称を改め、現在に至っています。その間、人口は約3万7千人から約22万8千人に増え、市民の皆さまの暮らしはもちろん、行政や広報の果たす役割も大きく変化してきました。今後時代に合わせて進化させ、上尾市をより身近に感じられる、そして、何よりも皆さまに愛される広報誌を目指し、職員と共に全力を傾注してまいりますのでご期待ください。

未来に向けて、市民の皆さまと行政とのかけ橋である『広報あげお』を通じて、一緒に笑顔があふれるまちを創っていきましょう。

澤部 給水所で豚汁配ってないよ。走り終わった後にもらえるの！
岩井 花火大会や上尾夏まつりも行きましたねー。夏祭りは大きなイベントだから、日本一らしいですよ。
澤部 いや、絶対日本一じゃないでしょ！ たしかに大きな祭りだけだよ。
岩井 大きさはじゃないよ、楽しさだよ。大きさが日本一なわけがないじゃないですか。

とにかく人が多すぎて、まずは原市の地元の祭りでごみに慣れてから行かないともたないから。
岩井 上尾での思い出といえば、水上公園もよく行ったね。プールだけじゃなく、スケートもやったし。
澤部 今は埼玉アイスアリーナができて、安藤美姫さんや浅田舞さんもよく上尾に行くって言うてたし、なんだかスケートのまちみたいになっているね。
岩井 なんだかすごいね。でも、上尾は自転車のまちっていわれてるよね。上尾というところではスー

パー銭湯だな。近所にもあって、いまだによく行っているし、日本一だからね。
澤部 何が日本一なの？
岩井 入ったときの気持ち良さ。
澤部 いや、それも人によるから！
岩井 せっかくの千号記念なんで、上尾を漢字一文字で表してみない？
澤部 唐突だね。漢字一文字で表すなら「穩」かな。当時住んでいた時は何も考えずに暮らしていたけど、上尾を離れて生活してみると、あんなに穩やかで、すてきな日々はなかったと今は思うね。上尾は何もないとかネガティブなことを言われることもあるけど、逆に、何もない良さもあるんじゃないかな。最終的には、家族で上尾に住みたいですね。
岩井 俺もまったく一緒ですね。
澤部 いや、まったく一緒ってことはないでしょ、独身だし。
岩井 独身にも優しいまちですから。独身も住みやすいものがそろっていますから。
澤部 具体的に挙げてもらっていますか？



小学校入学時の岩井さん

ハライチ

(ワタナベエンターテインメント所属)

(左)岩井 勇気(いわい・ゆうき)昭和61年7月31日生
(右)澤部 佑(さわべ・ゆう)昭和61年5月19日生

【プロフィール】 上尾市出身。コンビ名の「ハライチ」は、出身である原市の地名から命名。幼稚園から幼馴染だった2人でコンビを組み、高校3年生から本格的なお笑い活動を開始。平成18年から現在のワタナベエンターテインメントに所属し、お笑いやバラエティなど、さまざまなメディアで活躍している。平成25年には出身である原市小学校の開校140周年記念式典で講演、また平成26年には文化センターで凱旋ライブを行うなど、地元、上尾市の発展にも大きく貢献している。

岩井 …スーパー銭湯とか。
澤部 またスーパー銭湯！
岩井 僕はあんまり、上尾に大きな変化を求めていないんですよ。いつもの上尾であってほしい。いつも帰ったら、ああ、このまちだんつて思える場所であってほしいです。
澤部 いいこと言いますね。千号記念にふさわしい。今日はありがとうございました。

